



2009.2.17  
第138号

**発行**  
福島県市町村教育委員会  
北会津支会  
北会津支会  
北会津支会

**編集**  
福島県教育庁  
会津教育事務所

**編集協力**  
小・中学校長会

# 「景気後退期に思う」



会津教育事務所  
総務次長 秋津 正夫

我が国は、つい最近まで「いざなぎ景気」を超える戦後最長の好景気が続いていた。しかし、その間あまり実感がなかった。それもそのはず企業は大きな利益をあげていたが働く人の平均所得は逆に減っていた。その後、急激な原油価格の高騰、物価高、そして米国の金融危機に端を発した一〇〇年に一度という世界的金融危機が起き、景気後退局面に入ってきた。今、派遣切りや雇用止めが深刻な社会問題となっている。

企業は経済のグローバル化に伴って、生き残りをかけて国際競争力をつけなければならない。人件費コストを減らすため、正規社員から派遣社員、契約社員、パート等の非正規雇用へのシフトが進められてきた。派遣社員については、多様な働き方の選択や雇用の拡大等のメリットがある一方、不況時にあっては、真っ先に雇用調整の対象になる。これは企業からすればやむを得ないことではあるが、企業には雇用の確保など社会的責任を果たすことが強く求められている。いつも気になっていたことがある。雇用形態が非正規化する

ことよって、所得格差が益々広がってきており、いわゆる「ワーキングプア(働く貧困層)」と呼ばれる年収二〇〇万円以下の人達が、二〇〇六年には、一千万人を突破したという。これは由々しきことであり、世代間に亘って貧困が再生産されないことを願っている。

少子高齢化の中にあつて、安定した景気と雇用を確保するため、外需依存から内需主導へ構造転換を図ることが必要だとよく言われるが難しい課題である。因みに、日本の個人金融資産の約七十五%は六十歳以上の人がもっている。貯蓄志向の国民性もあると思うが、医療、介護、年金など老後に不安があることも貯蓄に励む要因かと思われる。今更高齢者に消費を勧めるわけではないが、必要以上に貯蓄しなくても安心して生活できる社会の実現に向けて、仕組みづくりを考えるとときではないかと思う。

## 各種受賞紹介

敬称略

### ○内閣総理大臣表彰

- ・安全功労者表彰  
北塩原村立裏磐梯中学校

### ○文部科学大臣表彰

- ・地方教育行政功労者表彰  
前沼田町教育委員会教育長 大坂 恭一
- ・優秀教員表彰  
会津若松市立門田小学校教諭 渡部 尚美  
会津若松市立第五中学校教諭 小野 香織
- ・学校保健及び学校安全表彰  
元福島県立川口高等学校学校歯科医 栗城 悠三

### ・優良公民館表彰

- 磐梯町中央公民館

### ○独立行政法人日本スポーツ振興センター表彰

- ・学校安全優良校  
喜多方市立松山小学校

### ○県文化功労賞

- エッセイスト 大石 邦子

### ○県教育委員会表彰

- ・地方教育行政功労者  
前塩川町教育委員会教育長 物江 清光  
前西会津町教育委員会委員長 松崎 好延
- ・学校教育功労者  
会津若松市立城北小学校長 齋藤 秀一  
喜多方市立第一小学校長 田崎 敬修
- ・優秀教員  
会津若松市立小釜井小学校主任 柴田 隆志  
長瀬 英子  
会津美里町立本郷第一小学校教諭 菊池 幸実  
兼松 満明

### ・社会教育功労者

- 前喜多方市中央公民館長 山形 洋一

### ・社会教育団体

- 会津若松市立第二中学校父母と教師の会

### ・文化財保護功労者

- 会津坂下町文化財調査委員長 古川 利意

### ○福島県学校給食優良団体表彰

- ・優良校  
猪苗代町立猪苗代中学校

### ○食育推進実践校表彰

- ・優良校  
猪苗代町立吾妻小学校

### ○学校保健功労者

- 喜多方市立若月小学校学校歯科医 井草 重雄

### ○優良学校保健・給食団体

- 会津若松市立河東学園小学校

### ○へき地教育功績顕著な団体・施設

- 金山町立横田小学校

### ○県学校歯科保健優良校表彰

- ・特別表彰  
三島町立三島小学校

### ・最優秀賞

- 会津若松市立河東学園小学校

### ・優秀賞

- 喜多方市立第一小学校

### ・優秀賞

- 喜多方市立立山第二小学校

### ・優秀賞

- 湯川村立藤常小学校

### ○福島県学校保健安全優良学校・功労者表彰

- ・学校保健優良校  
会津若松市立荒船小学校

### ・功労者表彰

- 湯川村立藤常小学校

### ・学校保健功労者

- 喜多方市立松山小学校学校医 小野 満矩

### ○県教職員研究論文入賞者

- ・入選  
会津若松市立講教小学校 (代表) 校長 小野 俊夫

### ・奨励賞

- 北塩原村立裏磐梯小学校 (代表) 校長 橋本千賀子

### ○県学校緑化コンクール表彰

- <学校林等活動の部>

### ・県林業協会会長賞

- 喜多方市立高郷小学校

### <学校環境緑化の部>

### ・関東森林管理局長賞

- 会津若松市立川南小学校

### ・県林業協会会長賞

- 会津若松市立湊小学校

### ・県都市公園緑化協会理事長賞

- 北塩原村立裏磐梯小学校

### ○文化・スポーツ知事感謝状

### ・文化部門

- 村野井幸雄 (福島県現代詩人協会名誉会員)

### ・会津彫塑会 (会津若松市)

### ・スポーツ部門

- 森 ひさえ (会津若松市 福島県ダンススポーツ連盟会長)

### ・人竹 孝 (会津若松市 福島県なぎなた連盟副会長)

- 会津なぎなたスポーツ少年団 (会津若松市)

## 小学校英語活動実践研究事業 会津若松地域連絡協議会

会津若松市の6校（鶴城小、行仁小、謹教小、日新小、門田小、小金井小）は、平成19年度から、小学校英語活動等実践研究事業の拠点校に指定され、英語活動等についての指導方法等の確立を目的として実践的な取組みを推進してきました。

2年間の実践の中で確認できた重要事項等の一部を紹介したいと思います。

### ○授業パターンの確立

学校としての授業型を確立し、共通実践することで成果も多く期待できます。

#### 【授業型例】

導入	○英語でのあいさつ ○歌やチャンツ ○ショートゲーム（2～3分のもの）
展開	○活動（2～3活動程度） 1. 聞く活動      2. 口まねする活動 3. 記憶し自分のものにする活動 4. 自分の意志で選んで発話する活動 の中から段階的に1回で2～3活動選択して構成する。 ※発話活動を急がない。 ※身近で、子どもがやりたい活動を考えて活動を設定する。
まとめ	○教師の賞賛      ○授業の振り返り ○英語でのあいさつ

### ○学級担任の役割の自覚

学級担任は、計画作成、授業運営だけでなく、「英語学習者のモデル」となり、英語を使おうとする姿を児童に見せることが大切です。

### ○英語ノートを活用

児童は関心を持って取り組んでいます。各校の状況に応じて工夫して活用するとよいでしょう。



### ○聞く活動の充実

発話活動を急がずに十分な聞く活動を設定することが大切です。聞くことを中心としたゲーム等を充実させたいものです。

### ○自信をつけさせる場の設定

実態調査で、英語は好きだが、英語に自信が持てない児童が多いことがわかりました。安心して英語を話せる授業環境作りや、子どもがALT等と言葉を交わす場面を設定し、「自分の英語で伝わった！」という経験を積み重ねることが必要です。

なお、事業の成果を「実践事例集」として各校に配付する予定ですので、ご活用いただければ幸いです。

## 自分探し学習（キャリア教育）

喜多方市立会北中学校

教育目標である「自己の生き方について考え、自立できる生徒を育成する」を目指し、総合的な学習の時間（ふるさと学習）に「自分探し学習」として位置づけている。

「自分探し学習」では、職場体験学習・進路講演会・3年生に話を聞く会（1年）・未来を見つめる時間（2・3年）として40時間配当し行っている。

「進路講演会」では、将来に向けての職業意識を高めることを目的として職業の異なる、主に本校の卒業生や本校に関係の深い方を中心に講師を選定し、3年ローテーションを組み様々な職業について話を聞くことができるよう配慮している。本校の卒業生（時には現PTA会員であることもあり）ということで、職業を身近なものとして考える良い機会になっている。原則として、  
1年次：看護師・消防士・自動車整備士  
2年次：保育士・警察官・スポーツインストラクター  
3年次：旅館業・税理士・美容師  
となっているが、今年度は、学校薬剤師・美容師の2名をお願いした。

講演にあたっては事前・事後指導に重点をおいて取り組み、職業意識の高揚に努め、その後の職場体験学習につなげている。



## 会津の教育に寄せる思い

会津若松商工会議所青年部 会長 真部 正美

私も会津若松商工会議所青年部では、平成20年11月に開催致しました『会津エンジン04』を含め過去4回事業を実施しており、会津エンジンを通して教育に対する考えが深まって参りました。日本では「いじめ」や「犯罪」の低年齢化が進み、日本全体で精神・道徳教育の在り方が問われています。このような現状で、注目されたのが、『ならぬことはならぬ』の会津武士道精神です。学力の向上・スポーツ振興等、会津だから出来ることを構築し、モデル都市として全国に発信して頂きたいと思っています。

また、子供たちの鑑は大人たちであります。大人たちが立派な行動をとることが、子供たちに良い見本として心に伝わると思っています。

青年部事業のひとつに『ジュニアエコノミーカレッジ』があります。この事業は、子供たちに実際に会社を興し商売の面白さや社会の仕組み、大変さを体験し学んでもらいます。同時に親の苦勞についても感じてもらっています。体験した子供たちが、10年後20年後の日本を担う人に育ってくれることを希望します。

これからの子、孫へ伝えていかななくてはならない大切な教え、精神・道徳、ここ会津に残る歴史や文化、古き良きものを大切にしながらも変えるべきところは変え、チャレンジして頂きたいと考えております。

我が町からの情報発信

心と技をつなぐ「放課後子ども教室」

金山町教育委員会

我が町は、県内一の高齢化率の高い町として新聞に報道された。小学生の数は、町内の2つの小学校（金山小学校・横田小学校）合わせて70名である。

小学校では、2校とも「放課後子ども教室」を開設しているが、子どもにとって、高齢者の方は豊富な知識と経験を有する尊敬すべき“先生”である。

町の社会教育指導員がコーディネーターを務め、毎日の放課後活動のほか、月2回程度の「地域活動日」を設けているが、中身は「暮らし文化体験」「地域を知る活動」「地域の人と関わる活動」「季節行事体験」などであり、講師はほとんど地域の高齢者の方である。

冬の作業としての「縄より（縄織い）」や「葉細工」などの活動では“先生”の名人芸に子どもは目を見張り、高齢者の方も「この時とばかり」に真剣に指導される。

子どもにとっては高齢者の方との触れ合いの中から心や技を引継ぐ機会、高齢者の方にとっては若返りの源となっている「放課後子ども教室」である。



教師の品格

湯川村教育委員会教育長

大関 善壽



子どもたちに好かれる先生になりたい。それは誰しもが等しく願うところでもあります。そのために、私たちは懸命に研鑽しています。ところが、仕事に慣れてきますと、自分のしていることの評価を怠りがちになります。

教員に内在するこの落とし穴が、実は怖いのです。不祥事が報道されるたびに、教育界に「裸の王様」が闊歩する姿を想うと、教職を退いたこの老兵も世間様に申し開きのできない、恥ずかしさと苛立ちで心が乱れるものです。

他人様から注文を受けたり、指図されたりすることに、教員は不慣れで来ています。ましてや、保護者の方々から苦言などを頂戴しますと、オロオロしてしまうものです。

「先生、裸だよ!」と宣告されるまで、自分の傲りに気づけない先生も惨めではありますが、そのこと以上に教室の子どもたちが不憫でなりません。

純真に学ぶ子どもの心に真正面から応えるためには、真摯な態度で教職の道を通すこと以外に如何なる術も見つからないものです。

学校教育相談事業だより

学校教育相談員 目黒 則雄

人間は、人、物、社会、自然などの他とのかかわりという営みによって生き続けている。人とのかかわりという営みである教育相談の中で、児童生徒にかかわっていくという学校教育相談は、一層、重要視されてきている。

かかわりを漢字で表現してみると、次のようなものが挙げられる。

- ・ 関わり——好意の持たれるかかわりを行う
- ・ 係わり——つながりを持つ
- ・ 干わり——他のことまで入り込む
- ・ 涉わり——離れたままでのやりとりを行う
- ・ 拘わり——狭い枠に縛られる

上記の表現から、教育相談について反省させられる点が、いくつか浮かび上がってくる。

それは、「表面上のやりとりになり、心の離れた、つながりのない相談でなかったか」、「ある拘りに終始した相談でなかったか」、「人格まで入り込んだ相談でなかったか」などである。

その反省点を改善する手立てとして、次の三つを大切にしていきたい。

1. リフレーミング
  - 否定的に見やすいことを別の角度から肯定的に表現してあげること
2. 行為の外在化と人格の内在化
  - 悪行為は認めず、気持ちは受容すること
3. 学校教育相談の考え方の明確化
  - 自己実現を図るための援助であること。

### 作品と指導

工作

「暮らしの器を何となく楽しみたい」



会津美里町立本郷中学校  
2年 菊地 菜都希

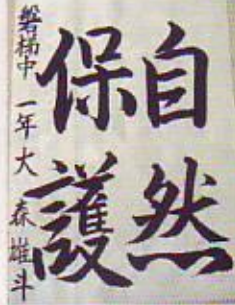
菊地さんは陶芸部部長。使い手の心が楽しくなるデザインを心がけているようです。その作品からは、やさしさやあたたかさが伝わってきます。菊地さんの新年の抱負は「人の目をとめるような作品をめざす」です。

指導者 浅倉 佐知子

習字

磐梯町立磐梯中学校  
1年 大森 雄斗

『自然保護』



手本をよく見て、文字の形に注意して一枚一枚大切に書くことを心がけて練習しています。楷書の基本的な筆使いをもとに難しい課題に挑戦しました。行書体の特徴をとらえ、丁寧にバランスよい作品に仕上げられています。

指導者 高橋 光一

絵

『思い出の校舎』



北塩原村立さくら小学校  
6年 五十嵐 虹美

4月から改築した校舎での学習が始まりました。6年生にとって最後の思い出の校舎を描こうということで取り組んだところ。昔からそびえ立つ大木と新校舎の組み合わせを考え、温か味のある校舎を表現した作品となりました。

指導者 猪俣 幸子

## 私の抱負

教員体験研修を終えて



会津若松市立  
城西小学校  
教諭 吉野 徹

「百年に一度」と言われる大不況。企業経営の厳しさは大変なものでした。時代の変化に柔軟かつ迅速に対応するとともに、複雑で多岐にわたる業務を滞りなく進めるには、組織的な対応が求められます。学校でも、教職員一人一人の持ち味を生かした適切な役割分担を行うとともに、教職員のチームワークをよくすることが重要です。それには、職員が「プラス1」の考えを持ち、最低限の自分の仕事のほかに、他の仕事も補い合うことが必要です。そして、欠点や失敗を指摘し合うのではなく、互いのよさを認め合える職場づくりが求められます。困難な時代だからこそ、互いに助け合い、やりがいを持って教育実践に取り組める学校でありたいと思います。

海外日本人学校派遣を通して



会津若松市立  
鶴城小学校  
教諭 横山 晴彦

ピカソ、ミロ、ガウディといった多くの芸術家・建築家が活躍し世界遺産が街のあちこちにみられる芸術・文化の街、バルセロナ。そんな素晴らしい街で暮らす幸せを感じつつ私がいつも意識していたのは「日本」でした。外国で暮らすことは自分が日本人であることを様々な場面で意識することになりました。そしてそれは、日本人の精神性や「道」と名のつく文化の素晴らしさに改めて気づくことにつながりました。日本人であることを誇りつつ、グローバル（国際的）な感覚を持つ・ナショナル（国内的）な問題を認識し・その上でローカル（地方）で生きていくというグローカリズム的な生き方の素晴らしさを会津の子どもたちに伝えていきたいと思っています。

地域における食育の推進役として



会津坂下町立  
第二中学校  
栄養教諭 横田 みえ子

私は、昨年四月より会津坂下町の小学校四校、中学校二校において年間計画に基づく食育の授業を担当しています。年間五十八時間の授業を、各学校の先生方と連絡調整をとりながら進めてきました。食育の授業を通して、地元で採れる野菜や生産者・調理員の仕事を紹介することで学校給食センターと子どもたちの距離感が縮まり、苦手だった野菜が好きになり、苦手だった野菜が食べやすくなりました。給食で食へてみようという気持ちにつながっています。仕事を知らせることで、子どもたちは感謝の心を持つようになり、感謝の心は、地産地消を取り入れた給食は、児童生徒の「食べる力・感謝の心・郷土愛」をはぐくむための最高の教材になります。会津坂下町では、食育推進計画が策定され、学校・家庭・地域が連携した食育ネットワークが設置されました。栄養教諭は、地域の食育推進コーディネーターとしても積極的に関わり、子どもたちが健康的に食生活を送るよう支援していきたいと思っています。